

入試年度	2026年度入試	研究科	商学研究科
課程	修士課程	コース	経済学コース
入試期	2期	入試方式	全入試区分
研究分野(演習科目名)	関係法(租税法演習)		
出題意図及び解答又は解答例 ※試験問題自体を公開しない場合はその理由			
出題問題	わが国の所得税法において所得を区分する趣旨を述べるとともに、10種類の所得区分を列挙し、それぞれどのような所得が該当するか説明しなさい。		
出題意図	所得税の基礎的な知識である所得区分を問う問題である。 大学院で租税法を研究するにあたり必要となる能力を確認する意図をもって出題した。		
解答又は解答例	本問題は論述式の筆記試験問題であり、解答は一義的でないため、以下に、採点時の基準や観点等を示している。採点にあたっては、以下の点を総合的に評価する。 ・所得は、例えば勤労性所得と資産性所得では担税力が異なるなど、所得の種類により担税力が異なる。このため、わが国の所得税法では所得を10種類に区分し、各所得に応じた計算方法を規定している旨述べているか。 ・利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得の10種類を列挙し、各所得について説明されているか。		